

第 30 回日本災害医学会総会・学術集会記念大会に参加しました (2025/3/6-8)

テーマ：海とともに生きる！伊勢湾台風復興の地で災害のこれまでとこれからを考える
場 所：名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや、愛知県名古屋市）

2025年3月6日（木）-8日（土）の3日間、愛知県名古屋市の名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）で、第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会が開催されました。北川喜己名古屋掖済会病院院長が会長を、福和伸夫名古屋大学名誉教授が副会長を務めました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が教育講演およびポスターセッション座長を、また委員として社会医学系専門医・指導医講習会の運営を行いました。過去最高となる約3300名の災害医療従事者、救急・消防関係者、保健行政関係者等が学術集会に参加しました。

1995年に発足した日本DMATは今年で20周年を迎え、学術集会では数多くのDMAT特別セッションが組まれました。阪神・淡路大震災を機に発足し多発外傷や熱傷を念頭に発展した日本DMATも、東日本大震災での中長期に渡る医療支援、熊本地震での保健福祉との連携、コロナ禍や能登半島地震での高齢者施設との連携など、災害を経るたびにアップデート、変遷を繰り返してきました。DMAT発展の歴史、そしてこれからDMATが向かうべき方向性について、熱い討論が交わされました。

佐々木准教授は、医療安全に関する教育講演の座長を務め、愛知医科大学病院医療安全管理室の奥村将年教授から「ルールを（盲目的に）守ってばかりではいけないよ」という、医療安全の概念を覆すような大変興味深いご講演を、満場の聴衆とともに拝聴しました。また、佐々木准教授は今回、日本災害医学会学術誌「Japanese Journal of Disaster Medicine」の優秀査読者賞を受賞し、鳥取大学教授本間正人代表理事から総会で表彰されました。

3月9日（日）には、日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチーム（JADM-CoST）研修が国立病院機構名古屋医療センターを会場に開催され、全国から120名を超える医療関係者が受講しました。JADM-CoSTには、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨、そして令和6年能登半島地震時に被災県知事から派遣要請があり、熊本県や岡山県、石川県に設置された県庁本部などで本部運営サポートを行いました。佐々木准教授は学会委員で過去3回派遣実績があり、研修では経験も交えながらファシリテーターを務めました。

今後、日本災害医学会総会・学術集会は第31回が2026年3月19日-21日に新潟県新潟市の朱鷺メッセで、第32回が2027年3月18日-20日に北海道札幌市札幌コンベンションセンターで開催される予定です。保健医療以外の分野からの参加者、演題登録も広くお待ちしております。



開会式で挨拶する大会長の北川喜己名古屋掖済会病院院長



奥村将年教授の医療安全講演「官僚的・軍事的医療安全では災害時の予期せぬ状況変化に対応できない」



総会で優秀査読者賞を授与される佐々木准教授